

# 新年のご挨拶

(平成 26 年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交歓会より)

## 会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会  
会長 浜口 友一

皆さん、あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。今日は茂木大臣を始め経済産業省の幹部の方々、それから関連団体の皆様方、また会員の皆様方に多数ご参加をいただき、まことにありがとうございます。



昨年ご挨拶申し上げました時に、少し明るさが見えてきそうだと申し上げたのですが、一年たちまして本当に経済も現実にも明るくなってきたような気がしています。会員アンケートを見ましても、今後売上が増加していくだろうという会員が大変多くなっていて、非常に明るい見通しが出てきたと思っています。

昨年の 6 月に世界最先端 IT 国家創造宣言が政府から出されました。内容を見ますと、われわれがこれからやらなければならないことがほとんど網羅されていて、これが進んでいけば非常に良い情報化が進んでいくのではないかと考えています。また、昨年 5 月にはいわゆるマイナンバー法が成立しました。これはまさにわれわれが待望していたものでございまして、2016 年から実施されることになっていますが、これが実施されますと、まさに IT 社会インフラ、あるいは電子政府が急速に進むのではないかと考えています。日本の電子政府はご承知のようにハードは非常に優れたものを持っていますけれども、ソフト面でやや後れを取っている状況でございまして、それが一気に進むとわれわれは期待しています。

また、今年4月に消費税率のアップがございますし、それから引き続きまして社会保障あるいは防災いろいろな面での情報化が予定されています。われわれ業界といたしましては、やはりこのような情報化の進展に寄与するとともに、このシステムの改修をきちっと進めていくというのが、まず一番の先決であろうと考えています。グローバル化とか、あるいは人材の育成とか、いろいろな問題があるわけがございますけれども、皆さまのご指導、ご協力を得まして進めていきたいと考えています。

最後に、今日お集まりの皆様方のご健勝を祈念しますとともに、今年が皆様方にとって良い一年であるように祈念をいたしまして、挨拶に代えさせていただきます。

## 来賓挨拶

経済産業大臣

茂木 敏充

新年あけましておめでとうございます。元旦から一週間、穏やかな毎日が続いています。浜口会長を始め、情報サービス産業協会の皆さんには、清々しい新春をお迎えのことと、心からお祝い申し上げる次第でございます。

浜口会長の方から、明るい兆しが本格的になってきたというお言葉もありました。実は今日、今年の初閣議がございました。安倍政権発足から2年目の年を迎えたわけですが、昨年一年間を振り返ってみますと、長引くデフレからの脱却や過度な円高の是正が進み、株価の方も一年前には8千円台だったのが、今1万6千円をうかがう勢いです。GDPの成長率にしても4四半期連続でプラスということで、この一年間で日本経済は明らかにマイナスからプラスに転換しつつあると考えています。ボーナスが増えたという会社も多いのではないかと期待していますが、実は日本で最初にボーナスを出した人は三菱グループの創始者の岩崎弥太郎さんでした。ボーナスという言葉の語源で言うともう少し古くて、古代ローマの成功と収穫の神、ボヌス・エヴァントスから来ています。成功と収穫です。まさに企業収益の改善が賃上げや所得、そして雇用の拡大につながり、それが新たな消費を生んで、更なる投資、そして生産を生む。こういった好循環を作り、景気回復の実感が全国津々浦々に届けられる。こういった一年にしていきたいと考えています。



情報サービス産業は、売上高20兆円、従業員数90万人の、まさに我が国の主力産業で、ここに日本経済再生がかかっていると思っています。私が最初に担当したのはITの大臣でしたが、ITはあらゆる領域に活用される万能ツールとして、生産性向上のみならずイノベーションを誘発する力を秘めています。昨

年、ビッグデータというキーワードが IT 市場で賑わい、流行語大賞の候補にまでのぼりました。政府としても、ビッグデータのうち特に利用価値が高いとされているパーソナルデータについて、利活用の促進とプライバシーの保護を両立させるためのルールの整備に取り組んでいきたいと考えています。情報サービス産業が経済成長の立役者となるよう、政府としても最大限の後押しをしていきたいと考えています。

昨年、2020 年のオリンピック、パラリンピックの東京開催が決まりました。前回のオリンピックは、ちょうど 50 年前の 1964 年でした。日本は高度成長期にあり、テレビ、冷蔵庫、洗濯機と、三種の神器の普及が進みました。ちなみに、国産のテレビはその 10 年くらい前に発売されていて、相当高かったようです。今の値段に換算しますと 680 万円した。奥行きが 56 センチあったようです。そこに映し出されるオバケの Q 太郎は、原作では毛が三本ではなく十本あったようです（会場内笑い）。それはともかくとして、世界で最初にブラウン管に映し出された画像はアニメでも英語の言葉でもなく、日本語のカタカナのイロハのイでした。今年はこのイをイノベーションのイにしていきたいと思っています。情報サービス産業は、まさにイノベーションの宝庫です。さまざまな分野でイノベーションが生まれ、その相乗効果によって好循環が作り出される。こういった経済を作っていければと考えています。

今年は何年です。午の刻は時間で言うと昼前後の二時間です。ですから、お昼の 12 時、これを「正しい午」と書いて「正午」というわけです。まさに一日のうちで日が一番高い時間がやってきます。この一年が皆さんにとって明るい前向きな一年となりますことを心からご祈念申し上げまして、新春にあたってのご挨拶とさせていただきます。

## 乾杯挨拶

独立行政法人 情報処理推進機構

理事長 藤江 一正

皆様おめでとうございます。日頃は IPA の事業について、ここにいらっしゃる皆様にご支援を頂戴しています。高い席からではございますけれども、厚くお礼を申し上げます。



さて、IPA は情報セキュリティ、情報システムの信頼性、そして人材の育成を三本柱にして事業を遂行しています。特に情報セキュリティの関係では、昨今ご存じのように大変な数のサイバー攻撃がなされています。たとえば 2 年前のロンドンオリンピックでは、2 週間で 2 億 2 千万のサイバー攻撃を受けたと伺っています。当然ながら、全てについてセキュリティを担保するわけにはなかなかいきませんが、やはりきちんとセキュリティ対応していくことが一番の対策だと思います。そういう意味で、日頃、皆様からいろいろな情報をいただき、われわれが分析し、そして皆様に分析結果をお伝えするという形でのサイクルをきちんと動かしていきたいと思っています。来月の 19 日にはロンドンオリンピックの関係者の方をお招きして、サイバーセキュリティの関係のお話をさせていただくことになっています。備えと対応は早ければ早いに越したことはないと思っ  
ていまして、われわれ自身はその情報をこれからもどんどん皆様にご連絡申し上げていきたいと思っています。

情報システムの信頼性の問題は、前からの私どもの一丁目一番地の話です。また、IT の高度の人材育成につきましては、JISA 会員の皆様には毎回この席でいろいろとお願いをされていて恐縮ですが、技術系・事務系関係なく IT パスポートの取得、これは今は CBT で点数制で出てまいりますので、そういう意味でも是非チャレンジしていただきたい。それから、ここにいらっしゃる JISA 会員の

皆様には、基本・応用・高度という、グレードの2・3・4の試験に是非チャレンジしていただきたいと思います。

先程来の話にもございますとおり、豊かな成功体験というのが確信できる一年であってほしいと思います。それを祈念し、それから皆様のご健勝を祈念して杯を上げさせていただきたいと思います。乾杯！